

インターバンクの声（2017 年 12 月 13 日）

昨夜のニューヨーク市場は、昨日から 2 日間の日程で始まった FOMC の結果を待つ中、朝方 11 月の米生産者物価指数の発表があり、前月比で 0.4% 上昇、コア指数も 0.3% 上昇と市場予想を上回ったが、相場の反応は今一つだった。ただ、この結果に債券市場では低インフレへの懸念が後退したとして米長期金利が上昇に転じた。さらに株式市場でも金融株などを中心にダウ平均が続伸したために、遅まきながらドルも上昇に転じた。ドル円も午前中に 113 円 70 銭台まで上昇したが、その後、ドルの上値が重くなり始めた。そこに昨年の米大統領選の共和党候補指名争いにも参加した、お騒がせ議員としても有名なランド・ポール上院議員が赤字財政支出に反対票を投じると述べたことが伝わり、ドル円が大きくドル売りに傾いた。もっとも相場は同議員が以前から反対票を投じると表明していたことが分かっていたためか、すぐにドルが買い戻されている。再びドル円は 113 円台中盤に戻ったが、今日はこの後判明する米アラバマ州上院補欠選挙の結果が気になるところだ。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。